史編さんの窓 (25)

鷲が湯繁盛記

小口の朝日越と呼ぶ所は、江戸時代の地名を「鷲が入」といいます。

昔、一人のお百姓さんが、この山で杉の手入れをしているとき、傷ついて飛べない一羽の鷲が泉にひたっているのを見ました。初めは気にもとめませんでしたが、数日の後、鷲は傷が治って元気に飛んで行ったので、不思議に思ってその泉のそばへ行って見ると、それはこんこんと湧き出る湯でした。足の指にけが・をしていたお百姓さんは、早速この湯に足をひたしてみると、たちまちのうちにけが・が治ってしまいました。これが評判になり、近郷の人々はここを「鷲が湯」と呼んで利用するようになりました。

文政十三年（一八三〇）、この山の持主が温泉浴場を開業し、この浴場は繁盛しました。

乍恐以書付
奉願上候

一、御領分蒲原郡小口村地内私抱持地鷲が入と申す処前々より出湯これ有り、近村の者折々汲湯等仕り、功能もこれ有る趣に付（中略）殊の外諸病にふさわしく、諸人の助けにも相成候間、右湯開発入湯致し度き為、願上げ奉り候（中略）且又湯元繁盛仕り候はば相応の御冥加差上げ奉り度（以下略）

文政十三年寅八月

小口村抱持百姓
湯元開発願人
船越村
林　評左衛門㊞
湯元引請世話人
小口村組頭
忠右衛門㊞
小口村庄屋
彦右衛門㊞

柏崎御代官所
右奉願候通被仰付被下置度奥印仕差上申候　以上
大肝煎
林十郎左衛門㊞

厳しい幕藩体制の下で、さまざまな制限を加えられて生活していた農家の人たちにとって、たまの休みに、人里を離れた山陰の湯に心おきなくつかることは、どんなにか大きな慰安であったことでしょう。湯から上がって酒が汲みかわされることもあったし、時には博奕の席にもなったと伝えられています。

しかし、近郷の客をも集めて栄えていたこの温泉も、ある日瓦斯爆発がおこり、家は崩れ、けが人が出るという悲惨な事故に遭い、つぶれてしまいました。当時の人たちにとって、瓦斯爆発の威力は、神仏の怒りとも思われる恐怖だったようです。

明治六年一月、石油隆盛期のさきがけとして、東京の資本が進出してこの地に油井を掘り始めてから一鷲が入」は一転して石油のメッカとなりました。それから百十余年、今は、ここに石油やぐらが林立していたことを知る人も少なくなっています。

鷲が湯があったと推測されるところ

乾電池回収を八月から実施

不燃物収集日に回収します――＊

先号でもお知らせしましたが、市では、八月から乾電池（筒型）の回収を行います。

この回収は、乾電池に限らず、蛍光灯や水銀体温計、鏡など家庭の中にある水銀を含む有害ゴミも合わせて回収するものです。回収方法と回収日は左の表のとおりです。各家庭あるいは事業所で集められたものを不燃物収集日に出してください。

また乾電池の回収には、市内の「新津電機商組合」の加盟店からも協力していただくことになりました。「使用済み乾電池回収協力店」というステッカーの貼ってある電機器具販売店へ持っていけば、引き取ってくれます（乾電池に限ります）。

ボタン型電池の回収は従来通り

ボタン型の水銀電池は、メーカー側の日本電池・器具工業会が今年の二月から回収を行っており、電気器具販売店やカメラ店、時計店に回収箱が設置されています。不用になったボタン型水銀電池は、今までどおり回収箱設置店で回収してもらってください。

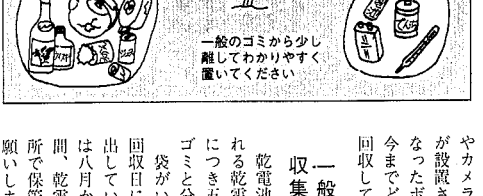
一般ゴミとの分別収集にご協力を

乾電池は、各家庭に配布される乾電池専用回収袋（一軒につき五枚）に入れ、一般のゴミと分別してください。

袋がいっぱいになったら、回収日にゴミステーションに出していただきますが、回収は八月からです。それまでの間、乾電池は各家庭、各事業所で保管してくださるようお願いします。

有害ゴミの種類及び回収（8月1日から実施）

種類	回収場所	回収日	回収方法
乾電池	ゴミステーション	月2回の不燃物収集日	専用ビニール袋
	家電販売店	常時	回収箱
	公共施設	月2回の不燃物収集日	専用ビニール袋
	事業所		専用ビニール袋
蛍光灯	ゴミステーション	月2回の不燃物収集日	こわれないように空箱または紙筒に入れてください
水銀体温計 鏡	ゴミステーション	月2回の不燃物収集日	専用ビニール袋（乾電池と共用）



一般のゴミから少し離してわかりやすく置いてください

阿達氏が『古今川柳散歩』を出版

広報紙上で、毎月健筆を振るっておられる阿達義雄氏が、昭和四十七年四月から約四年にわたって連載した「古今川柳漫歩」をこのほど一冊の本にまとめ、『古今川柳散歩』として出版されました。B六判で百七十四ページ、定価は七百円です。市内各書店で取り扱っていますので、お求めください。